

No	提 案 名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
9	泊まって分かる宇都宮 －民泊による観光振興事業－	宇都宮大学 行政学研究室チーム A	
		青木 美緒	宇都宮大学 国際学部
			指導教員氏名 中村 祐司

## 1. 提案の要旨

宇都宮市のホームページを見てみると、餃子やカクテル、大谷石など実に様々な宇都宮の魅力が挙げられている。しかし、宇都宮市に住み、その魅力を知る私たちにも、宇都宮市の観光産業が盛んであるというイメージはあまりなく、ホームページに記載されているような魅力を宇都宮市外に発信しきれていないという印象を受ける。現に、2016年の宇都宮観光動態調査によると、宇都宮市に訪しなかった多くの方が、宇都宮市の観光情報が分からなかったことや、魅力的な観光施設・観光資源が少ないことをその理由として挙げている。そこで私たちは、宇都宮市の観光を盛り上げる施策として、「学生団体が仲介役となった民泊事業」を提案したい。以下からは、なぜ私たちが“宿泊拠点”としての宇都宮市に可能性を感じたのか、具体的な事業内容、そして本施策実行による効果やその課題について述べていく。

## 2. 現状の分析と課題（施策事業考案の過程）

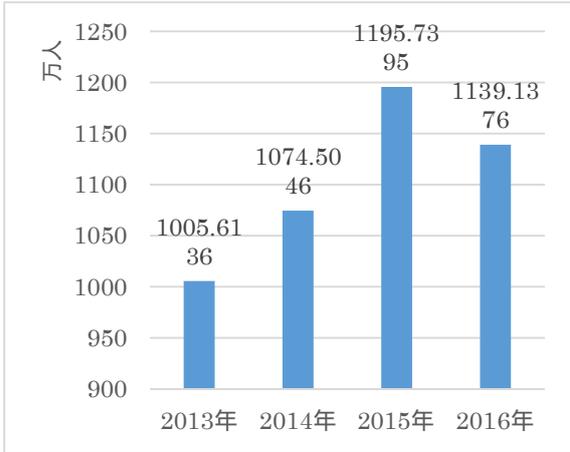
まず、現状分析の結果から、宇都宮市の観光分野における問題点は何であるのか、そして、なぜ私たちが宇都宮市の観光を盛り上げるために、既存の観光スポットやイベントではなく、“宿泊”そして“民泊”に着目したのかについて述べていきたい。

### （1）なぜ“宿泊拠点”を目指すのか

まず、JR 宇都宮駅からも多くの観光客が訪れる日光市の観光動態を見る。日光市が発行している、2016年度の「日光市統計書」によると日光市における観光客入り込み数・宿泊者数ともに、15年から16年にかけては多少減ったものの、13年から安定して増加傾向にある。その中でも増加が著しいのは外国人宿泊者数である。外国人宿泊者数は13年には4万666人であったが、16年では9万2448人と、3年間で倍以上の外国人が訪れており（図1および図2<sup>1</sup>）、日光市が世界遺産である日光東照宮を含めた国際的にも大きなブランド力をもった観光地であることが分かる。さらに、「平成の大修理」と呼ばれる工事が今年で終わりを迎えたことも、今後更なる観光客の増加を助長するのではないかと考えられる。また、日光市には日光東照宮だけでなく、華厳の滝や中禅寺湖といった観光名所も多く存在していることも、年間多くの観光客が日光市に訪れる要因ではないだろうか。以上のように、日光市には豊富な観光資源が存在すること、そして外国人観光客の著しい増加が見受

<sup>1</sup> 図1及び図2は「2016年度日光市統計書」の数値を元に本論文の作成者が作成したものである。

けられることから、日光市における観光業の更なる発展が期待できると考える。

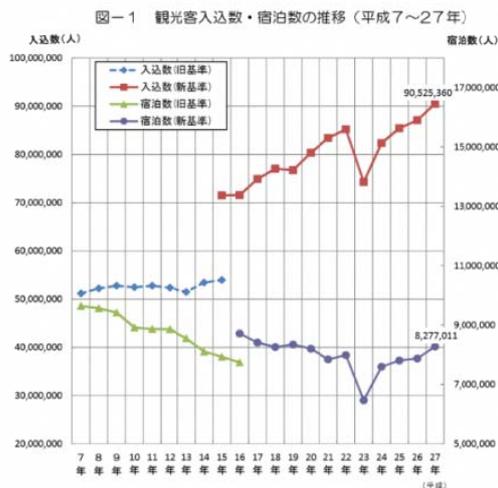


(図1) 観光客入り込み客数(日光市)

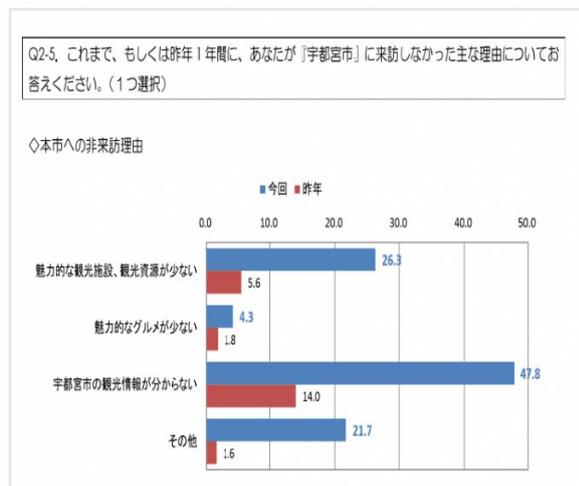


(図2) 宿泊者数の推移(日光市)

宇都宮市の観光動態を見る。16年度の「栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果」によると、宇都宮市の観光客入り込み数は13年から15年まで増加傾向が見られるが、やはり日光市に比べると増加率は低い(図3)。このように宇都宮市の観光客があまり増加しない傾向には、情報の発信が上手くいっていないこと、そして宇都宮市の観光地において、あまり目立った観光施設や資源がないという要因が挙げられる。実際、「平成28年宇都宮観光動態調査」によると、「これまで、もしくは昨年1年間に、あなたが『宇都宮市』に来訪しなかった主な理由についてお答えください」という複数回答の質問に対し、「宇都宮市の観光情報が分からない」47.8%に続いて「魅力的な観光施設、観光資源が少ない」という意見が26.3%という結果が出ている。特に、「観光資源が少ない」という点に関しては、観光スポットを盛り上げるイベントなどだけではカバーできないので、対策が難しいと考えられる。

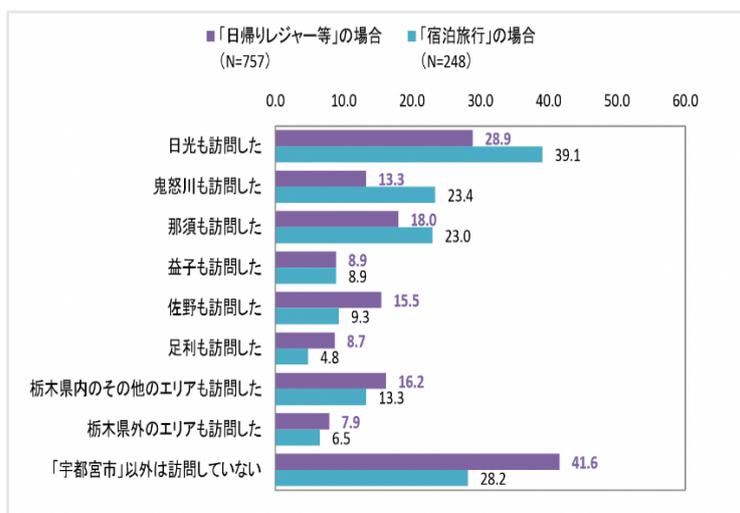


(図3) 宇都宮市観光客入込数・宿泊数の推移  
(資料: '16年度栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果)



(図4) 宇都宮市への非来訪理由  
(資料: 平成28年宇都宮観光動態調査)

また、宇都宮市の中心部はビジネス関係の施設が多いため宿泊施設はあるものの、国内外を含めた観光客が訪れるような施設が存在するのは難しいと考えられる。一方で、宇都宮市郊外部は宇都宮 I.C.などの広域道路交通拠点を有していることに加え、栃木県立博物館や大谷遺跡、宇都宮農林公園、ろまんちっく村、宇都宮動物園、とちのきファミリーランドなど多くの施設が存在しており、新たに取り組む資源の点在する地域として注目されている。しかし、これらが郊外にあることを考慮すると、自動車で来訪しない観光客が訪れるのは厳しいと思われる。確かに、市をあげて大谷遺跡などを宇都宮市の観光地として売り込んでいこうという意欲は見られるが、まだまだ発展途中であるように思う。



(図5) 宇都宮市来訪者の目的地

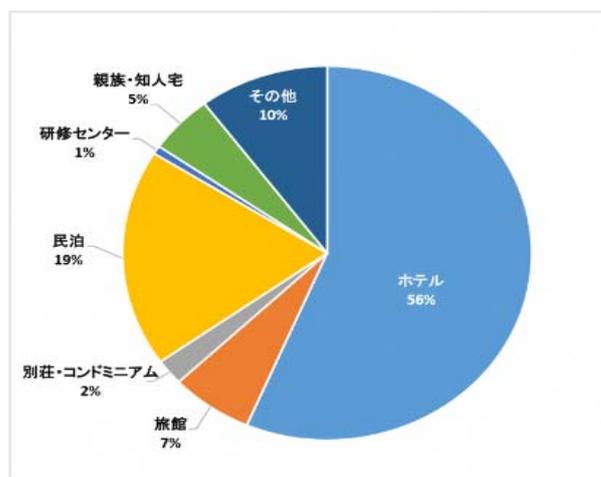
どの目的地に行かれましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数選択可)」という質問の回答結果から分かる。特に、注目したいのが宿泊旅行者である。約4割の観光客が日光市を訪問しており、日光市だけでなく鬼怒川や那須を訪問する人も多くみられる。さらに、宿泊旅行者に関してのみいえば、「宇都宮市以外は訪問していない」と回答したのは全体の28.2%であり、宿泊旅行者の7割以上が宇都宮市以外の場所も訪れていることが分かる(図5)。したがって以上のことから、宇都宮市を日光市などの目立った観光地への宿泊拠点として売り出し、実際に宿泊してもらうことで、目的地だけではなく、宇都宮市の魅力を感じられる機会になるのではないかと考える。

## (2) なぜ“民泊”なのか

上記のことを踏まえ、宇都宮市を日光市や東京などの観光地に行くための宿泊先として選んでもらうためには、現地にある宿泊施設とは別の特別な魅力がなければならない。つまり、他との差別化が必要である。そこで「民泊」という形での宿泊先提供を提案したい。これは主に日光市など宇都宮市周辺の目立った観光地を訪れようとしている観光客をねらったもので、宿泊費が他の施設よりも安価で済むことや(外国人観光客の場合は)日本の家庭文化を体験できること、ホストとコミュニケーションがとれることなどを売りにする

宇都宮市の観光において、以上のような現状が分かった一方で、別の特徴も分かった。それは、宇都宮市を訪れる観光客の多くが宇都宮市以外の場所も訪れているということである。この特徴は「平成28年宇都宮市観光動態調査」に記載の「昨年1年間に「日帰りレジャー、飲食・娯楽など」や「宿泊を伴う旅行」で『宇都宮市』に行かれたとき、

ことで、他との差別化を図りたいと考えている。民泊という宿泊形態は、まだ日本に浸透しているものとは言えないだろう。しかし、大阪観光局が16年7月から17年3月までに関西国際空港で外国人旅行者を対象として実施した「平成28年度 関西国際空港 外国人動向調査」<sup>2</sup>では、そのうちの19%が大阪での宿泊で民泊したという結果が明らかになった（図6）。また、民泊の総合メディア情報メディアである「excite 民泊」のあるAirbnb<sup>3</sup>利用者への（受け入れ側として）インタビュー記事によると、編集者の「民泊をはじめてから今までの変化は何かありますか。」という質問に対し、「日本人が増えましたね。特にここ2か月はすごい増えました。昔は日本人からメッセージが来ると逆に戸惑うくらいだったのですが、3組に1組は日本人になったんじゃないかなと思います。」と回答していることから、外国人観光客だけでなく日本人を対象とした民泊も、利用者数が増える将来性があると考えられ、宇都宮市において民泊ができる家が増えることは、観光客増加に有効であると考えられる。



（図6）大阪での宿泊施設に関する調査（資料：平成28年度 関西国際空港 外国人動向調査）

### 3. 提案の目標

以上のことを前提とした、本提案での具体的な目標は主に、①日光や東京へのアクセスの良さを生かした宿泊拠点として売り出すことで、観光客が宇都宮市に立ち寄る機会を増やす。②宿泊を通して宇都宮市の魅力を感じてもらう。の2点である。

### 4. 施策事業の提案

#### （1）具体的な事業内容と運営の主体

これまで「民泊事業」と述べてきたが、私たちが構想するものは、日光市などの周辺地域への観光客をターゲットとした3泊4日のイベント民泊のようなものである。具体的には、宿泊者の日光市などの宇都宮市周辺地域を観光したいという希望を第一に尊重するた

<sup>2</sup> 2018年にも観光庁による宿泊旅行統計調査に民泊データを盛り込むという動きがあるが、現行の調査では民泊というカテゴリーがないため全国版のデータがないため、大阪府のものを引用した

<sup>3</sup> Airbnbとは、

め、4日間のうち3日を自由行動の出来る日にし、1日のみ運営団体が企画した宇都宮市の魅力を知ってもらえるような観光ツアーに参加してもらうというものである。希望によっては、ホスト側にもこのツアーに参加してもらうことによって、宿泊者と宇都宮市民（ホスト側）双方に宇都宮市の魅力を再発見してほしいというねらいがある。

この事業の運営そしてサポート役としては、地域の人と関わりたい、英語などの言語を使って外国人観光客をサポートしたいという意欲のある学生のボランティアを募りたい。また、運営の軸が学生である点とこの施策をまずは試験的に実行してみることの必要性を考慮して、通年の営業ではなく、学生の長期休暇中であり、最も観光客が訪れると考えられる夏季の2か月間に限定する（2か月間で4回から8回実施する）のが最適であると考ええる。

## （2）宿泊までの流れと運営方法



ここでは実際の宿泊までをどのように行うかについて、順を追って述べていきたい。

まず、受け入れ先と宿泊希望者の募集についてである。募集（申し込み）は専用サイトを立ち上げ、その専用サイト内で行う。受け入れ希望者にはいくつかの3泊4日プランの中から受け入れが可能な日程を選択してもらい、宿泊希望者は宇都宮市の魅力を知る1日のプラン内容と日程を見て希望プランを選択してもらう。さらに、ここで述べておきたいのは、募集をPRするときの対象者である。宿泊希望者も受け入れ希望者についても直接募集の範囲を狭めるということはないが、受け入れ側に関しては、空き部屋があり、時間の確保も比較的しやすいと考えられる、定年退職後の60代を中心に募集をしたい。

続いて、マッチングについてであるが、他人を自宅に泊めるということへの双方の不安感をできるだけなくし、さらに安全性を高めるために、受け入れ希望者と宿泊希望者には申し込みの際、顔写真と身分証明書の提示を行ってもらう。さらにその際、申込フォームには宿泊時に体験してみたいことや行きたい観光地などの希望、相手の人物像が見えるような質問への回答などを書き込んでもらい、その情報を元に運営側がマッチングを行う。

マッチングをして、双方の了承後は、受け入れ者と宿泊者の一組にひとりかふたりの担当者が付き、相手の情報の提供や宿泊が問題なく終わるようにサポートをしていく。宿泊が行われている最中も担当者は毎日様子を見に行き、受け入れ者に不安がないよう、受け入れ者が担当の者を頼りやすい環境づくりをする。また、4日間の内の1日（学生がプロデュースした宇都宮の魅力を知るプログラムを組んでいる日）は、その期間に宿泊しているゲストと希望があればホスト全員が共に観光・体験してもらう。

そして、宿泊後は専用サイトまたは担当者を通じて、プログラム内容や担当者に対する

フィードバックをもらうことで今後の運営につなげていくという流れである。

また、以上のような運営をスムーズに行い、さらに PR 効果もかねて専用サイトの設置が必要である。専用サイトの中に盛り込む項目は、宿泊希望者と受け入れ希望者、学生ボランティアの募集欄（申し込みページ）、事業説明、参加者によるフィードバックや体験談などを考えている。

### （３）本施策の重要点

本施策において最も重要であると考えられるのは、宿泊者用の宇都宮観光ツアーまたは体験イベント（４日間の内の１日）の企画、そして参加者を募るための情報提供である。

まずは、宿泊者用の宇都宮市内観光ツアーまたは体験イベントの企画についてである。宿泊自体だけではなく、宇都宮市の魅力を感じてもらうこの一日も非常に重要である。宿泊者にとって他の都市の観光がメインだとしても、宇都宮市での一日についても興味をもってもらうため、様々なテーマのツアーを提供する。以下は、プログラムのテーマとその概要の一例である。

テーマ	宇都宮のお酒めぐりツアー：うつのみやのお酒に没頭する一日
内容	栃木県酒造組合 酒々楽や宇都宮ブルワリー（BLUE MAGIC）、宇都宮カクテル倶楽部加盟店をめぐり、栃木県と宇都宮市のお酒（日本酒、地ビール、カクテル）を堪能する。

テーマ	女子向け宇都宮ツアー：ゆるやかなうつのみやの女子旅
内容	大谷資料館見学の後、そばにある ROCKSIDE MARKET café でゆっくり過ごす。夕食をとったのち、女性でも入りやすいバーでカクテルを楽しむ。

また、この宇都宮の魅力を知ってもらう一日に関しては、みやたびや宇都宮観光コンベンション協会と共催する。主に、既存のプログラムへの参加受け入れや学生考案のツアー、または、イベントプランへのアドバイス、観光地でのガイドなどの方法で協力をいただきたいと考えている。

次に、宿泊者を受け入れるホストや宿泊者を募るための情報提供、PR 方法についてである。施策の成功のためには、受け入れ先と宿泊希望者の数を確保することが重要であり、その数の確保のためには情報の提供が重要である。情報提供の方法は広報など様々考えられるが、主にインターネット上での情報提供に力を入れたい。専用サイトの他に SNS を利用し、その中でも Facebook を用いる。Facebook を用いる理由としては、訪日外国人は主に SNS によって日本旅行の情報を得ていること、他の SNS に比べ、Facebook は若者だけでなく、高齢者の方も多く利用している（HP 総務省）という２点が挙げられる。そこで、

専用サイトでは管理しにくい、スタッフによる公開での質問への回答や実際の宿泊の様子を書いた最新投稿が上げられることによって、取り組みの透明性を高めると同時に、より多くの人への情報提供をねらう。

( 4 ) 以上の内容を含めた宿泊日程の例

1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
<p>16:00 ゲストが宇都宮駅到着 ⇒担当の学生ボランティアとホストが駅で迎える</p> <p>16:20 ホスト宅到着 ⇒学生付き添いの下、宿泊の際のルールなどを説明</p> <p>18:30 学生ボランティアもホストが作ってくれた夕食を共にいただきながら、互いの自己紹介や会話をし親睦を深める</p>	<p>10:00 ・担当の学生ボランティアが様子を見に伺う ・事前の宿泊者の日光市を観光したいという希望により、日光観光へ出発 ⇒ホストと宿泊者の相談により、この日は宿泊者の単独行動の1日に</p> <p>ゲストが日光観光の間に、学生ボランティアはホストと今後の確認や不安がないかの相談などを行う</p> <p>17:00 ゲストが帰宅 ⇒ホストとゲストが共に夕食を作ることに</p> <p>一緒にテレビを見たり、会話しながらゆっくり過ごす</p>	<p>11:30 宇都宮市の魅力発見ツアーに出発 ⇒学生ボランティアがその日1日をコーディネートし、ガイドする ⇒同じ期間中に宿泊している他のゲストとホスト(希望があれば)も集めてツアーや体験を行う</p>	<p>8:00 ホストの日課である朝の散歩と一緒に歩く</p> <p>11:30 ホストが行きつけの定食屋さんで昼食をとる</p> <p>14:00 ・担当の学生ボランティアが宇都宮駅で合流 ・ゲストが宇都宮駅を出発</p>

## 5. 波及効果

### (1) 参加者への効果

まず、宿泊者へのメリットとしては、主に以下の3点が挙げられる。1つ目は、一般的な宿泊施設よりも低価格で宿泊することができることである。2つ目は、民泊ならではの地元市民のあたたかさが感じられるということ。最後は、外国人観光客にとってのメリットであるが、日本の一般的な暮らしが実際に体験できるという点である。

次に、受け入れ側へのメリットであるが、主に以下の2点が挙げられる。まず、国際交流に興味のある市民や若者と交流したい市民にとってひとつの機会になること、そしてこれらのことがお金をかけずにできるという点である。

最後に、運営の主体である学生ボランティアへのメリットである。まずは、地域の方との交流の場ができること、そしてその交流や運営を支えることによって、学生にとっても宇都宮市の魅力の再発見につながるということである。さらに、ボランティア活動など何か行動を起こしてみたいという意欲的な学生のための貴重な実践経験の場になるという効果も挙げられる。

### (2) 宇都宮市への効果

予想される波及効果は主に3点ある。まず、1点目は4日間のうち丸1日を宇都宮の魅力を知ってもらう日として設けることによって、「ジャズのまち」や「カクテルのまち」などの通常の観光や宿泊ではPRしにくいものの魅力を直接知ってもらえるという点である。2点目は、宇都宮市の魅力に触れてもらう日を設けることによって、観光客だけでなく、ホスト(宇都宮市民)自身が宇都宮市の魅力を再発見できる機会になるという点である。宇都宮市民が宇都宮市の魅力を再発見し、誇りに思うことは、よいまちづくりにも繋がるのではないだろうか。最後の3点目は、民泊によって観光客が宇都宮市民のあたたかさを感じられたり、あまり知られていないような宇都宮市の魅力を知ることができたりすることで、宇都宮市を「何度も訪れたいまち」と感じてもらうことが期待できる点である。

## 6. 遂行上の問題点

遂行上の課題は主に3点あると考える。まず、1点目は受け入れ先の数をどれだけ確保できるかという点である。ここ数年で日本国内の民泊の需要や認知度は高まってきているとはいえ、日本人にとって民泊は、まだまだなじみのあるものだとは言えない。そして、学生団体側が宿泊希望者の情報をできる限り提供したとしても、“知らない人”を我が家に泊めることに不安を感じる人は多いだろう。これらのことから、受け入れ先の数の確保が難航する可能性があると考えられる。はじめは希望者や受け入れ先がどれだけ集まるかについての予想もたてられないため、継続する中でよりよいPR方法や安心して受け入れてもらえる方法を模索する必要がある。

2点目は、宿泊者の宿泊中に何かトラブルが起こった場合、どこが責任を負うかという点である。現段階で考えられる対策はいくつかあるが、旅館業法や保証制度強化による受け入れ数増加の見込みなどを考慮すると、現段階ではどの方法が最適か模索中であり、この点においては試行錯誤しつつ、事業の実施に取り組んでいきたい。

## 7. 最後に

私たちが重視した点は、私たち学生や市民が主体となって実行し、まちづくりに参加する、つまり宇都宮の未来をつくっていくことである。本施策は市民参加型のまちづくりへの小さな一歩であり、本施策の提案を通して、市民が問題意識を共有していくことや一体となって宇都宮市の魅力を発信し、市民と学生が共に宇都宮のまちをつくっていくことの重要性を伝えられればと思う。

### 《参考資料》

平成 28 年版 日光市統計書 (2017 年 11 月 23 日 最終閲覧)

<https://www.city.nikko.lg.jp/seisaku/profile/data/documents/28-0-00-18.pdf>

宇都宮市観光振興プラン 資料編 (平成 25 年 4 月策定)(2017 年 11 月 23 日 最終閲覧)

[http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/res/projects/default\\_project/page/001/007/264/kanosinkouplansiryohen.pdf](http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/res/projects/default_project/page/001/007/264/kanosinkouplansiryohen.pdf)

平成 28 年 宇都宮市観光動態調査 (2017 年 11 月 23 日 最終閲覧)

[http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/res/projects/default\\_project/page/001/007/262/doutai.pdf](http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/res/projects/default_project/page/001/007/262/doutai.pdf)

平成 27 年 栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果 栃木県産業労働観光部観光交流課 (2017 年 11 月 23 日 最終閲覧)

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/f05/system/honchou/honchou/documents/honpen03.pdf>

平成 28 年度 関西国際空港 外国人動向調査結果 (2017 年 11 月 24 日 最終閲覧)

[http://www.osaka-info.jp/jp/press/images/外国人動向調査\(2016年度%20年間\).pdf](http://www.osaka-info.jp/jp/press/images/外国人動向調査(2016年度%20年間).pdf)

HP 法務省 (2017 年 11 月 24 日 最終閲覧)

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc242220.html>

日光インバウンド調査～来訪外国人への四季を通じたアンケート調査～

(2017 年 11 月 24 日最終閲覧)

[http://www.ashikagabank.co.jp/news/pdf/abk\\_q1990.pdf](http://www.ashikagabank.co.jp/news/pdf/abk_q1990.pdf)

HP excite 民泊 (2017 年 11 月 29 日 最終閲覧)

<https://minpaku.excite.co.jp/interview/201609091234/>

宇都宮観光コンベンション協会「宇都宮市まちあるきマップ とっておきの I LOVE U I Love Utsunomiya!」

宇都宮カクテル倶楽部、宇都宮観光コンベンション協会「『ようこそ。宇都宮カクテル倶楽部招待状 UTSUNOMIYA COCKTAIL CLUB SINCE 1999 2017-2018 年版』」

宇都宮観光コンベンション協会「宇都宮ジャズライブマップ UTSUNOMIYA JAZZ LIVE MAP」  
(2017年3月発行)